

A²『個別の教育支援計画』ツール 操作マニュアル

—目次—



日米の大学教授の協力の基に作成

- 0. Excel ファイルの選択
- 1. はじめのページ
- 2. トップページの構成
- 3. 【様式1】 フェイスシート
- 4. 【様式2】 実態把握・目標設定・合理的配慮などの支援方法・評価(【様式3】へ自動反映)
- 5. A²[支援のための発達アセスメント]
- 6. A²[合理的配慮などの支援方法アイディアリスト]
- 7. 【様式3】 評価の経年変化
- 8. 個別の教育移行支援計画
- 9. 【付録】校内／他機関連携シート
- 10. もしページを間違えたら・Excel の予測変換機能の解除
- 11. ご質問・お問い合わせ

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ ©A²研究会

A² 『個別の教育支援計画』ツール Ver. 1.3
 新任からできる実態把握 ゼヒゴ活用ください

子どもの実態把握や、指導者のチーム支援に悩んでいませんか？
 A²『個別の教育支援計画』は現場の先生方をお助けする便利ツールです。実態把握（新学習指導要領に対応した発達アセスメント）から合理的配慮を導き出すと共に、子どもの経年変化を記録することができます。

① 支援のための「発達アセスメントツール」としての活用

発達段階を選び、クリックするだけ！

新学習指導要領の段階目安を判定

「場所」と「課題」を、その場で視覚化！

② 「合理的配慮のアイディアリスト」を参考資料として収録

実態把握リーダーや子どもの課題に応じて、適切な配慮をらくらく検索！

※ ICFの視点の重視（社会参加への配慮）

③ 幼稚園・保育所/小学校（特別支援学校 小学部）
 ～中学・高校（特別支援学校 中学部・高等部）

④ 指導・支援の評価を経年で確認（3～18歳まで）

⑤ RTIモデルの活用と他機関連携

⑥ 愛着面の課題など、情動（行動/感情/情緒）の支援ニーズ考慮

難しい指導場面でのチーム支援に役立ちます

特別支援教育の充実と「意思決定」の支援

編集:A²研究会
 監修:佐藤克敏(京都教育大学)ら
 アドバイザー:Victoria Tarango
 (LADC, 東ロサンゼルス大学)
 協力:大阪府教育委員会支援教育地域支援整備事業
 大阪府立支援学校、市内幼稚園/小中学校

—2つのメイン機能—

A²[支援のための発達アセスメント]

- 特別支援学校学習指導要領の段階、発達特性凸凹、自立活動の目安がわかる

A²[合理的配慮など支援方法アイディアリスト]

- ICFの視点の重視(社会参加への配慮)

500以上

0. Excel ファイルの選択

A²「個別の教育支援計画」ツール:Excelファイル3種類(幼保)・(小)・(中高)の中から、対象となる子どもが現在所属する校種のファイルを選択して開く

1. はじめのページ

まずは、[はじめのページ] からスタート

- 1) 名前を記入(様式全体に反映される)
- 2) 所属学年(横軸)、おおよその発達年齢(縦軸)で、該当ボタンをクリック
該当学年・発達段階のトップページへ移動



発達段階を選択

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』 中学校/中学部・高等学校/高等部

名前: 1)

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
発達年齢・スキル	中1	中2	中3	高1	高2	高3
発達段階	中1	中2	中3	高1	高2	高3

発達年齢の選択に該当場合は、小学生程度の発達段階をお選びください

コミュニケーション・学習生活スキルの獲得に顕著な課題がある

円滑なコミュニケーション基礎的な学習ができる

全般的な知的発達・運動発達に関する課題は見られない

中学・高校 特別支援学校(中学・高等部)

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』 幼稚園・保育園

年齢:

性別:

はじめに 該当する をクリック

3歳児クラス

4歳児クラス

5歳児クラス

幼稚園・保育園

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』 小学校・支援学校(小学部)

年齢:

性別:

はじめに 該当する をクリック

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
発達年齢・スキル	小1	小2	小3	小4	小5	小6
発達段階	小1	小2	小3	小4	小5	小6

コミュニケーション・学習生活スキルの獲得に顕著な課題がある

円滑なコミュニケーション基礎的な学習ができる

小学校・特別支援学校(小学部)

2. トップページ

1) 【様式1】or【様式2】をクリックして開始。【様式3】は経年変化／個別の移行支援計画で使用する

- ① 【様式1】: 個別の教育支援計画として使用の際はここからスタート
- ② 【様式2】: A²[支援のための発達アセスメント]のみの使用の際はここからスタート



2) 以下のページは必要に応じて使用

- ④ [はじめのページ]: 名前の修正・発達段階や学年の再選択
- ⑤ A²[合理的配慮などの支援方法アイデアリスト] (【様式2】内にもリンクがあります)
- ⑥ 【付録】校内・他機関連携の記録シート

3. 【様式1】 フェイスシート

- 1) フェイスシートに基本事項(名前・診断名・手帳・服薬等)を記入
- 2) 医療・福祉など関係機関を記入
- 3) 担当者を記入
- 4) 対象学年(発達段階)をクリックして該当トップページへ戻る

1) 個別の教育支援計画

2) 担当者

3)

氏名		診断名		担当	
生年月日 (西暦)	年 月 日	診断 継続		担当 継続	継続
学校名		医療機関 (アレルギ ー・服薬 等)		担当 継続	継続
住所			担当 継続	継続	
連絡先			担当 継続	継続	
保護者		療育手帳	年 月 日	交付 会社 交付	
支援機関		療育手帳	年 月 日	継続	継続
		療育手帳	年 月 日	継続	継続
全学編 (付録参照)				継続	継続



トップページ



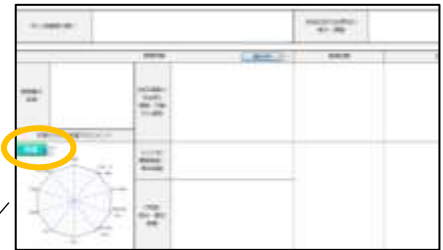
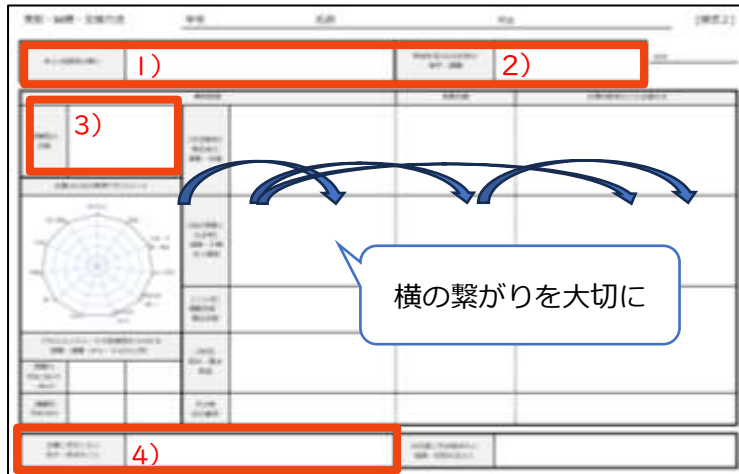
対象学年(発達段階)をクリック

4. 【様式2】 実態把握・目標設定・合理的配慮などの支援方法

- 1) 本人／保護者のねがい:実態に応じた本人の参画をめざす
- 2) 地域の行事やクラブ・趣味など社会参加の状況を記入
- 3) 他検査の情報等があれば記入
- 4)好きなこと・支援に活かしたい良さを記入
- 5) 支援のための発達アセスメント 作成をクリック



トップページ



【様式2】

5. A² [支援のための発達アセスメント]

- 1) 質問項目に、自分だけの力でできるかどうかチェック☑
 「できる(やる)」・「時々または部分的」・「できない(やらない)」
 3つの選択肢から、1つを選んでクリック

※項目は発達がより幼い内容から開始する。番号が先に進むにつれ、発達の課題として難しくなっていく

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
 お問い合わせ: a2eps@gmail.com

支援のための発達アセスメント (小学生程度の知的発達段階用) 【様式2 (実態・目標・支援)】 戻る

特別支援学校学習指導要領 小学部3段階・中学部1・2段階

名前: _____

全ての質問項目にご回答ください!
をグロック!

※ 実況がなくても自分でできるかどうかをチェックします 1)

情報	項目	できる	時々できる	できない	備考
情報	① 感情的にはなるが、自分の思いを相手に伝え、助けを求め	+	○	○	(H1)(X)(3)(C)(3)
	② イライラする状況でも、それを乗り越えて別の活動に取り組みなど、自分なりに対応まで気持ちを切り替えようとする	+	○	○	(H1)(X)(O)(3)(3)
	③ 大人の働きかけがあれば、イライラや不安などの感情を隠さずに伝えること	+	○	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	④ 楽しいことはあるが、基本的にはルールを守って集団での活動	+	○	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	⑤ 基本的にはルールを守って大きな集団での活動に参加する	○	+	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	⑥ 反だかとの関係や集団の中で「私は○○が得意だ」など自信を表現する	○	+	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	⑦ 色や人の気持ちを察して自分の行動を調整する	○	+	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	⑧ 集団がルールに合わせる	○	+	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	⑨ 困っている友達を助けるなど、クラスや友だち集団の中で自分ができることをする	○	+	○	(H1)(X)(3)(3)(3)
	⑩ 相手の話で面白い要素の切り合いをつけるなど、大人の助けがなくても発達の視点を理解して、意図を察しに合わせる	○	+	○	(H1)(X)(3)(3)(3)(4)(6)(5)

難易度 UP

↓

特別支援学校学習指導要領
[自立活動の区分]
 A²アセスメントの項目に応じ
 自立活動の関連項目の目安や
 予測を立てる

2) アセスメントの結果を確認 ⇒【様式2】へ戻る

【特別支援学校 学習指導要領】
 小学部2段階
 小学部3段階
 中学部1段階
 中学部2段階

※ こちらの段階分けは、総合的な観点から推測される、あくまでも目安です

2) 【様式2 (実績・目標・支援)】 戻る

【様式2】

特別支援学校学習指導要領の発達段階 (目安)

※アセスメントの変更が必要な場合 ⇒ トップページから[はじめのページ]に戻り, 発達段階を再選択
 【様式2】からアセスメントを再度チェックする(アセスメントを変更しても【様式1】は維持される)

“大き過ぎる”・“小さ過ぎる”場合は, 子どもの支援ニーズがより明確に見えるアセスメントに変更

今後の伸びが見えにくい
→ 次の発達段階に変更

子どもの特性が見えやすいよう
→ 前の発達段階に変更

3) 【様式2】 支援に活かす得意凸・合理的配慮や支援を要する課題凹を選択

スペースを一回クリック → 右上に選択ボタンが出る → 選択する (それぞれ2つまで選択可能)

理解シートや諸検査からわかる 得意なところ・課題なところ(チャートの凸と凹)	
得意凸 (指導に活かす・伸ばす)	[学習活動・書き・整理 対人関係] [注意・行動]
課題凹 (支援の検討)	[生活動作] 身辺自立・運動・作業

6. A²[合理的配慮などの支援方法アイデアリスト]

【様式2】の右上(2種類)実態把握に基づいて、目標と合理的配慮などの具体的な支援方法を検討

① ②

横の関連性を基に
合理的配慮等の支援方法を検討

トップページからも
リストに移動できる

① A²アセスメント対応 A²[合理的配慮などの支援方法アイデアリスト]

状況
本人特性

A²アセスメントの領域に
基づいて検討

② 診断名・臨床像から探す A²[合理的配慮などの支援方法アイデアリスト]

診断名・集団参加が難しい・落ち着きがない
・読み書きが苦手などの課題から検討

※ アイデアリストはあくまでも参考資料として使用し、個々の実態に応じた具体的な支援を検討する

7. 【様式3】 評価の経年変化

1) 【様式2】の中で、評価を簡潔に記入

※どのような条件・セッティング(3人程度の少人数などで)できたのか等を記録する ⇒ 反映

2) 引継ぎ欄に次年度に引き継ぎたい情報・特別な手立て(効果的であった支援など)を記入

3) 【様式3】へ移動 評価の経年変化を確認

4) 卒業時、引継ぎ欄事項を記入

【様式3】

幼稚園・保育園

小学校・特別支援学校(小学部)

【様式2】から【様式3】へ
自動で反映

※ 途中でアセスメントの段階変更をした際は、手入力(コピペ)

【様式3】手入力 Ver.を印刷する⇒ 印刷範囲を変更して「印刷」

発達段階を変更した場合、
手入力 Ver.を使用できる
(変更前の発達段階での、
【様式2】からコピペ)

- ① ドラッグして範囲を指定
- ② ページレイアウト
→印刷範囲の設定
→ファイルから印刷

手入力ではなく、自動反映させたい場合は、
過去の分を【様式2】に入力

8. 個別の教育移行支援計画

【様式3】（高校・高等部）

- 1) 実習・試験・面接時の配慮を検討
- 2) 実習の記録を記入
- 3) 卒業後への引継ぎ事項を記入

高校・高等部卒業時は「個別の移行支援計画」の機能

中学・高校・特別支援学校（中学・高等部）

※A²「個別の教育支援計画」は様式の中に「個別の移行支援計画」に記載する要素が含まれておるため、高校・高等部卒業時には「個別の教育支援計画／移行支援計画」として活用できる

9. 【付録】 校内／他機関連携シート

- 1) 記入者を記入
- 2) 機関の役割に応じた連携のための支援ニーズシートを作成 → 戻る
- 2) 支援連携等を行う関係機関を記載
- 3) 入学前の情報などがあれば記入
- 4) 支援会議・ケース会議などの記録

2)

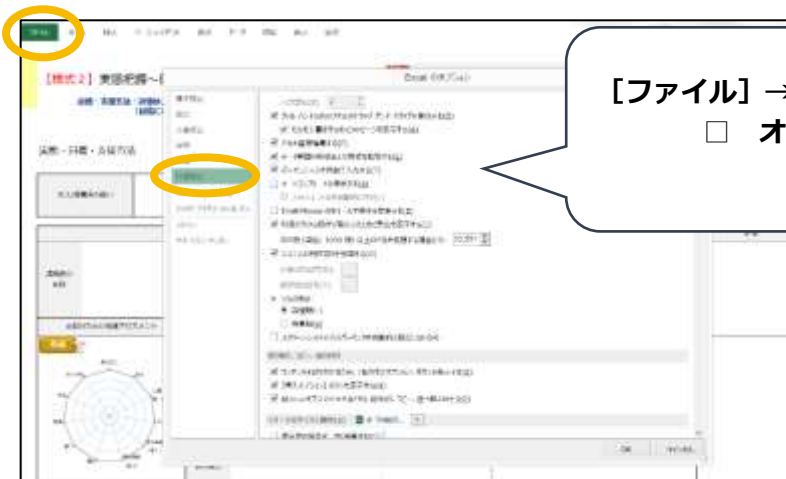
※ 必要に応じて活用する

10. もしページを間違えたら・Excel の予測変換機能の解除



どの年齢のトップページでも OK!
「はじめるページ」から戻る

Excel の予測変換機能を解除したいとき



【ファイル】 → 【オプション】 → 【詳細設定】

- オートコンプリートを使用する
解除

11. ご質問・お問い合わせ

※各【様式】の記入方法に関しては、記入マニュアル参照

A²研究会: a2ieps@gmail.com 事務局 岩山カイナ



引用・転載の際は、上記アドレスまでお知らせください
著作物の無断複製・改変などの行為は、著作権法の例外を除き禁止されています